



日本エンディング・コンシェルジュ協会

今からもっと自分らしい人生を

【協会理念】

人生100年時代の到来により従来の生活設計を見直す必要に迫られている現代。

エンディングノートはあなたの人生の計画ノートです。

自分らしく幸せな人生を送るために、
本当に自分自身に必要な情報とは・・・
日本エンディング・コンシェルジュ協会は
それらを選択するための幅広い知識と
コミュニケーション力を身につけた
エンディング・コンシェルジュの育成を
目的としています。



「人生100年時代」の自分らしい生き方について、各種専門家とのネットワークを構築し、必要なサポートを受けられるよう支援します。

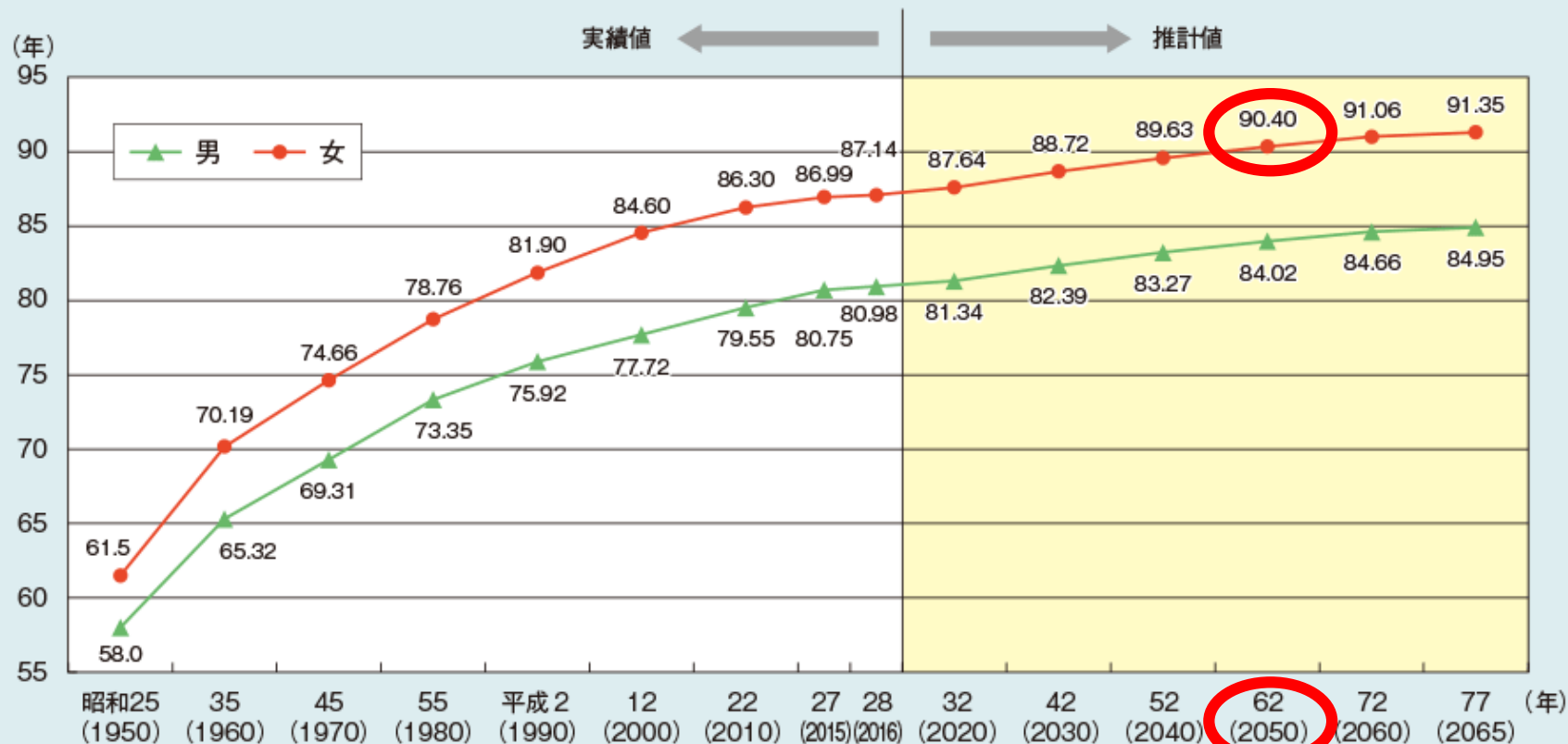


超長寿社会の到来

2050年 日本の女性の平均寿命は90歳を超える！？

図1-1-3

平均寿命の推移と将来推計

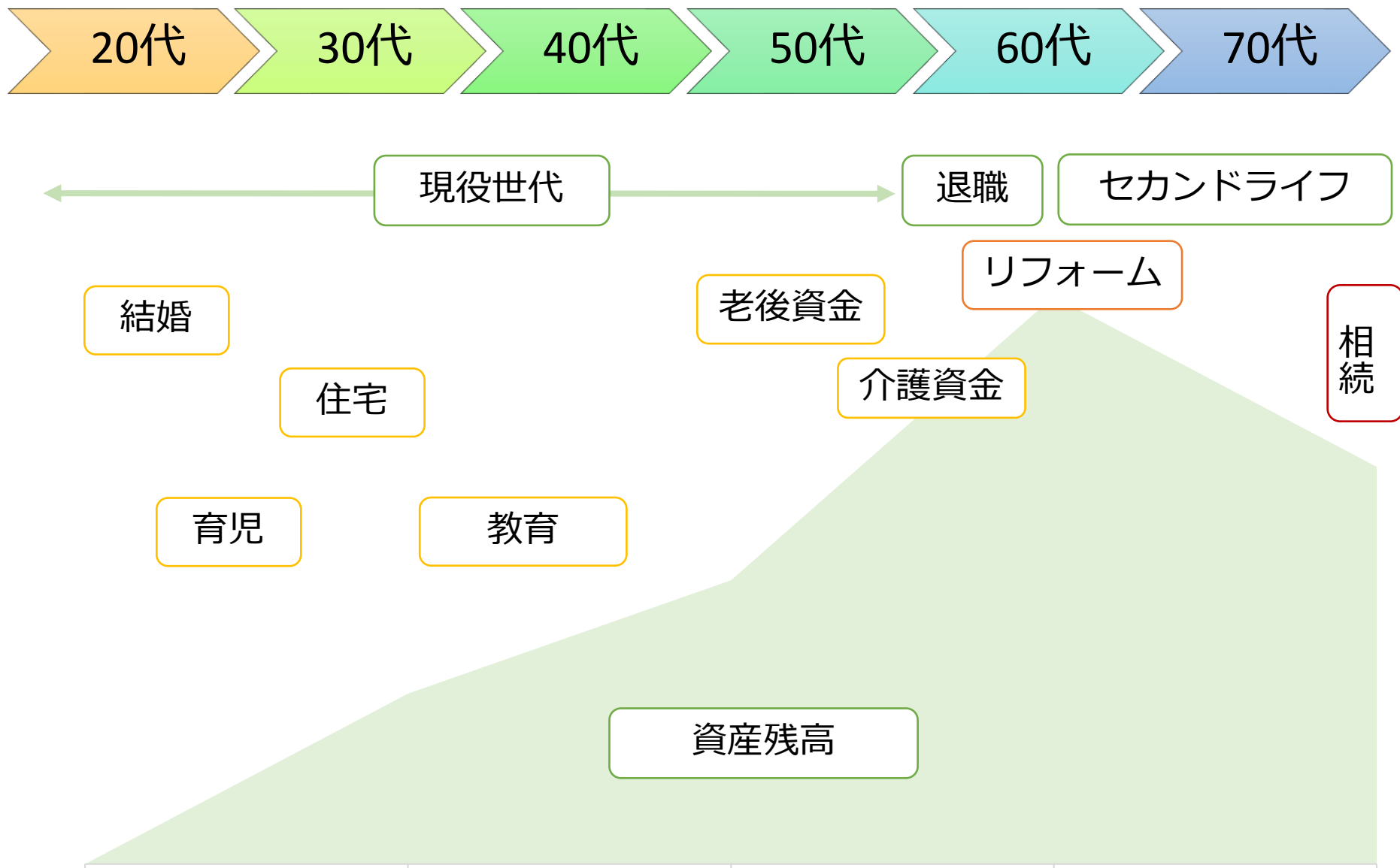


資料：1950年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2015年までは厚生労働省「完全生命表」、2016年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

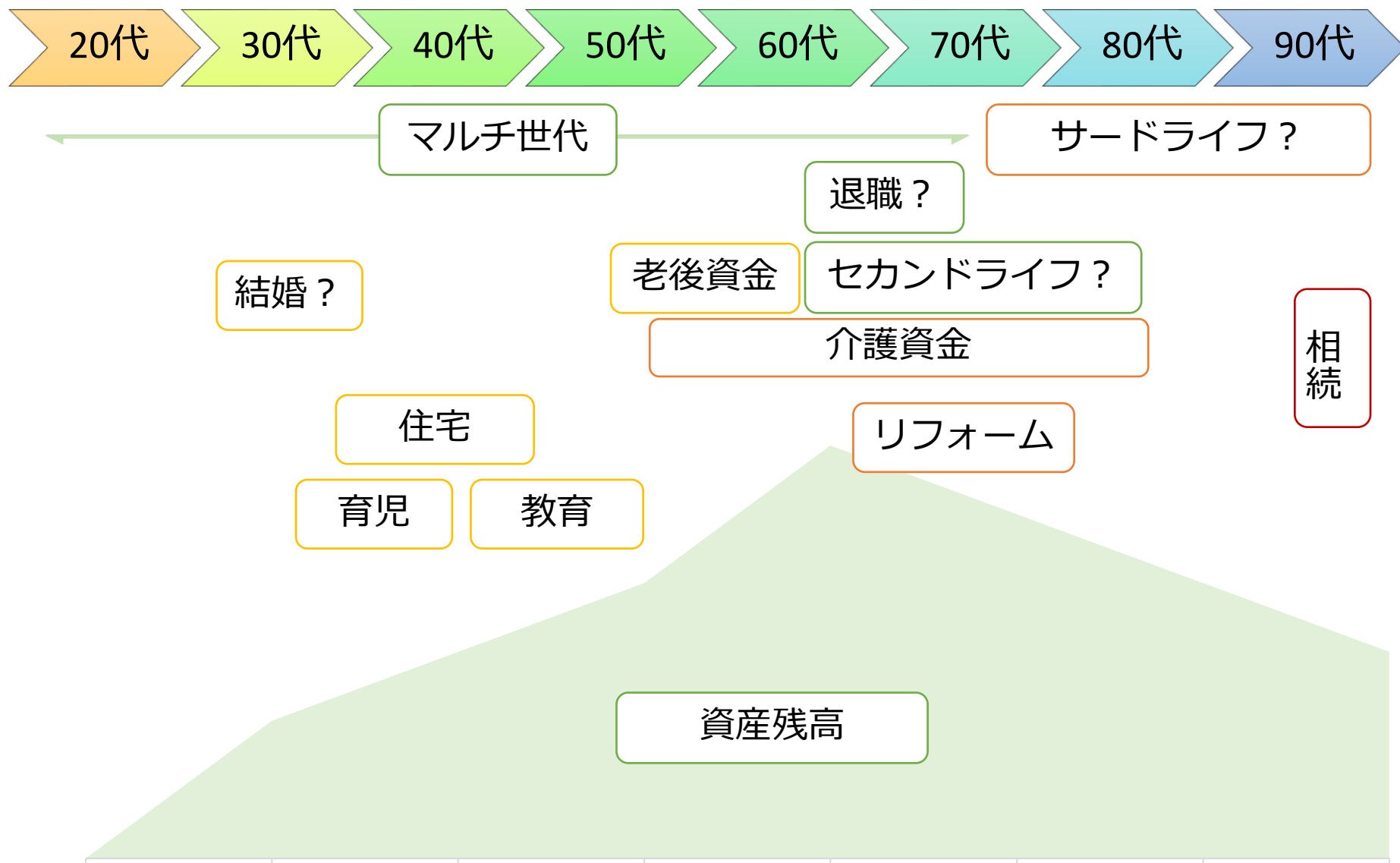
(注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

出典：内閣府「平成30年版高齢社会白書」（概要版）

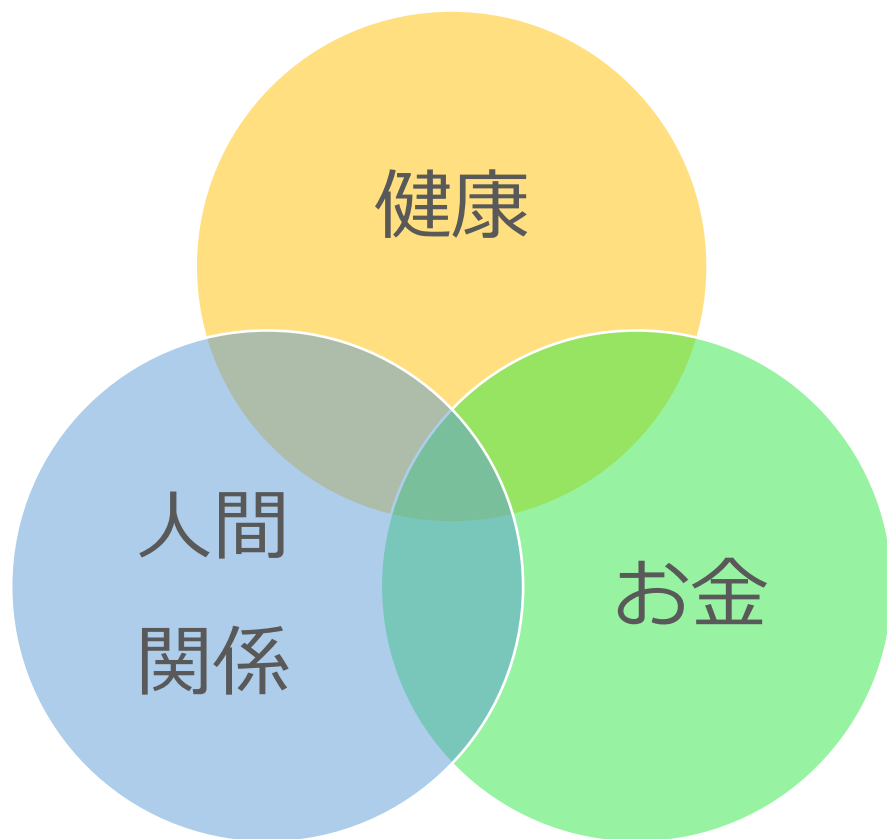
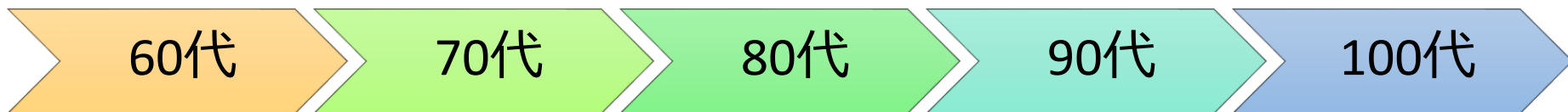
これまでのライフプラン



人生100年時代のライフプラン



超長寿時代の3大不安・心配



- ガンになったら告知はどうしよう・・・
- 認知症や介護が必要になったら・・・
- 健康で長生きしたいけど・・・
- 終末期医療について何をすればいい？

- 公的年金だけで暮らせるの？
- 医療費や介護費用の備えは足りる？
- 老後資金はいくらあれば大丈夫？
- 争族にしないためにできることは？

- パートナーを失ったら・・・
- 社会から孤立してしまったら・・・
- 友人との関係は続けられる？
- 家族以外に頼れる人はいる？

長寿社会に考えておくべきリスクとは

6.財産管理・相続

- 認知症・意識不明
- 成年後見人制度
- 家族信託
- 遺言
- 法定相続人
- 争族

3.片付け・家じまい

- 断捨離
- 生前整理・遺品整理
- 家じまい
- 空き家トラブル
- ゴミ屋敷

7.葬儀・お墓

- 変化する葬儀・お墓・供養方法
- 多死時代の火葬場不足
- 墓じまい
- 価値観の変化

2.年金・医療・介護

- 年金額減少・支給年齢の繰り上げ
- 先進医療費用
- 認知症・MCI
- 介護難民・介護離職
- 老老介護・認知介護

どんなリスクを
想定しておくか？

家族以外にも頼れる
相談者が必要

4.終末期医療・看取り

- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）
- 延命治療・尊厳死
- 臓器提供・献体
- PPKとNNK

5.エンディングノート

- インターネット取引の増加
- 本人しか知らない情報や意志
- デジタル遺品の問題
- 残された人の後悔

1.生活設計

- 人生100年時代の新しい人生設計
- 元気で幸せな長寿生活
- 生涯現役
- 退職後のコミュニティ

8.家族への支援

- 少子化・生涯未婚率
- 身元保証人
- 引きこもり、非正規雇用
- 兄弟姉妹の生活支援・保証人

終活とは

『人生100年時代』を**もっと自分らしく輝いて生きるための活動**

多様化するライフスタイルを自分で選択し、超長寿時代のリスクに備え、人生をより豊かに幸せに過ごすための活動が「終活」です。

それらの活動や自分の考え、気持ちを記録し、かけがえのないあなたの人生のストーリーを、あなたの言葉で伝えるもの。それが、エンディングノート役割です。

自分にもし万一のことがあったら・・・

もしも自分の意思を伝えられなくなったら・・・

そんな時のために、元気な今だから準備できることがあるのです。

エンディング・コンシェルジュについて

◆ エンディング・コンシェルジュが生まれた背景



「終活」という言葉が世の中に発信されたのは2009年といわれています。団塊の世代と呼ばれる1947（昭和22）年から1949（昭和24）年生まれの方たちが、60歳定年を迎えた時期でした。

日本は2010年に超高齢社会（人口に対する65歳以上の割合21%超）に突入しており、今後、2030年には30%を超え、2060年には40%超になると予測されています。

世界でもトップクラスの長寿国である日本。しかし、寿命は長くなっても、日常生活が問題なく送れる期間を表す「健康寿命」は50年前とほとんど変わっていないというデータもあります。

急激に進んだ超長寿社会に、社会制度が追いつけず、また変更や改正も多く、様々な課題に直面してから慌てる方も多くいらっしゃるのが現状です。

終活に関連するテーマは、たくさん考えられると思います。

私たちは、その中でも「①エンディングノート ②健康・医療 ③介護 ④ライフプラン（社会保障制度・保険） ⑤片付け・整理 ⑥財産・相続 ⑦葬儀・お墓 ⑧コミュニケーション」の8つのテーマを相談者の方々のためにケアしていくべきカテゴリーとし、基礎知識や最新情報を学んでいただくことで、エンディング・コンシェルジュとしてのサポートに従事していただきたいと考えています。

超長寿社会を生きるうえで、幅広い知識を持ち、専門家への橋渡しができるよろず相談窓口が多くの人に必要とされているのです。

エンディング・コンシェルジュが学ぶ8分野

葬儀・お墓	ライフプラン	エンディングノート
介護	相談者の 安心につながる シニアライフの実現	片付け・整理
財産・相続	健康・医療	コミュニケーション

エンディング・コンシェルジュについて

◆ エンディング・コンシェルジュの仕事内容

終活に興味を持ち、準備を始める方の中には、何から始めていいのかわからないという方が多くいます。

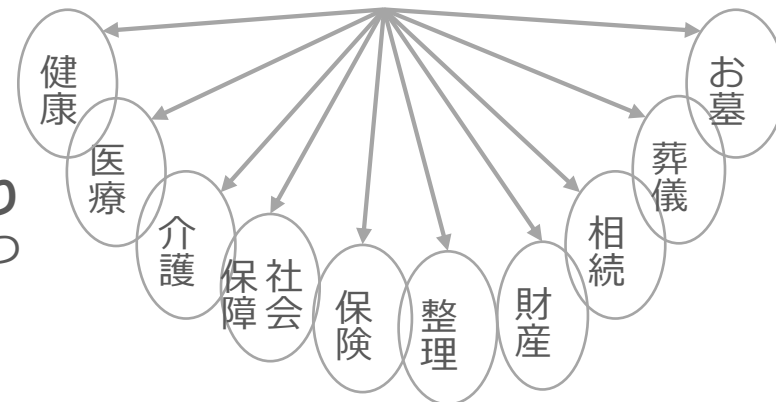
エンディング・コンシェルジュは、そういった方たちの**悩みや不安を聞き、課題を見つけ、終活に関わるどの専門家へ相談するかを判断し、案内すること**が仕事です。

課題を解決するのではなく、課題を一緒に見つけ、どこに相談すればいいかを判断し案内する「**シニアライフのよろず案内人**」であるエンディング・コンシェルジュには、課題解決につながる幅広い**終活に関する各分野の基礎知識**と、カウンセラーとしての**聴く力や共感する力**に加え、相談者の希望や潜在ニーズを引き出す**質問力**が必要です。

終活に関する資格はさまざまありますが、単なる課題の解決だけでなく、相談者が最期まで自分らしい人生を創っていくために、**相談者の心に寄り添うこと、相談者自身の生き方を大切にすること**を一つの軸として設けている点はエンディング・コンシェルジュが他の専門家と大きく異なる点です。



相談

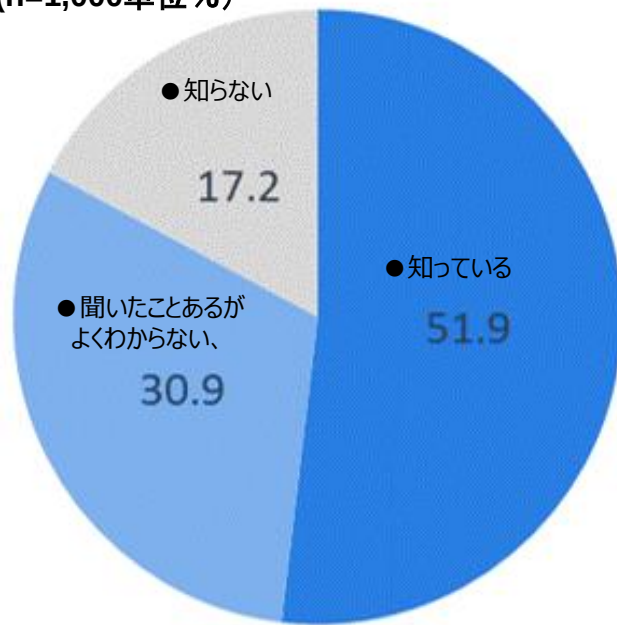


エンディングノートの現状

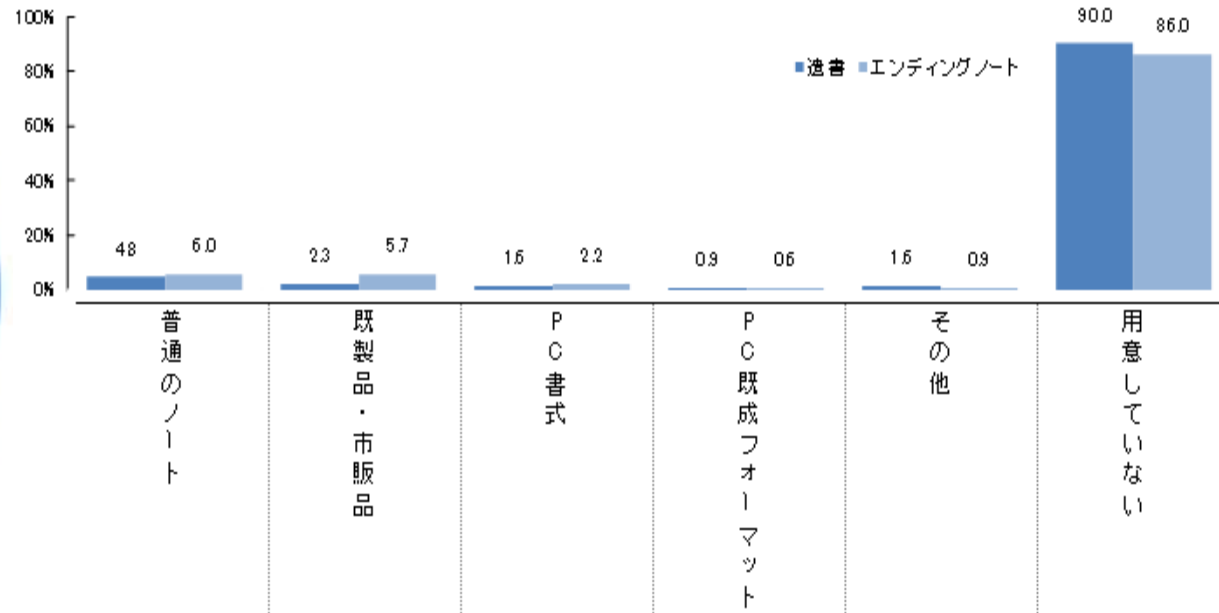
■8割以上の人「エンディングノート」を認知。しかし「用意をしていない」人がほとんど・・・

「エンディングノート」を知っているかを聞いたところ、「知っている」(51.9%)、「聞いたことはあるが、よく知らない」(30.9%)となり、8割以上の人認知している。しかし、実際に「遺書」または「エンディングノート」を用意しているかを聞いたところ、「用意していない」と答えた人が「遺書」は90.0%、「エンディングノート」は86.0%となり、9割弱は手をつけていない数値結果となっている。

◇「エンディングノート」を知っていますか
(n=1,000単位%)



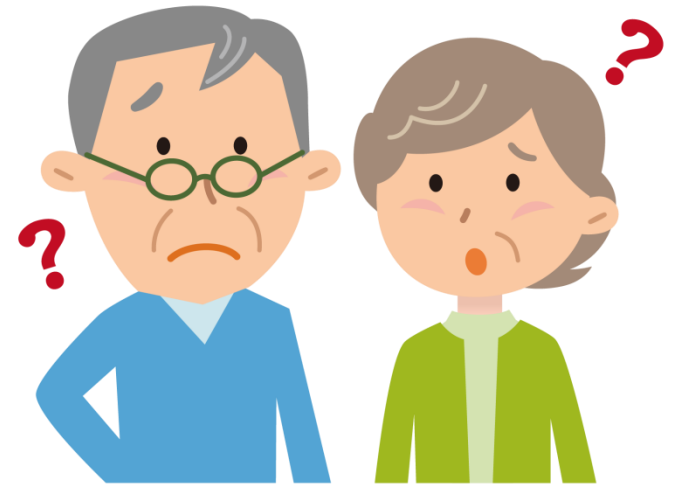
◇エンディングノートの準備状況 (n=1,000単位%)



■これらの現状にサポートする人材の養成が急務である

エンディングノートを書かない・書けない理由

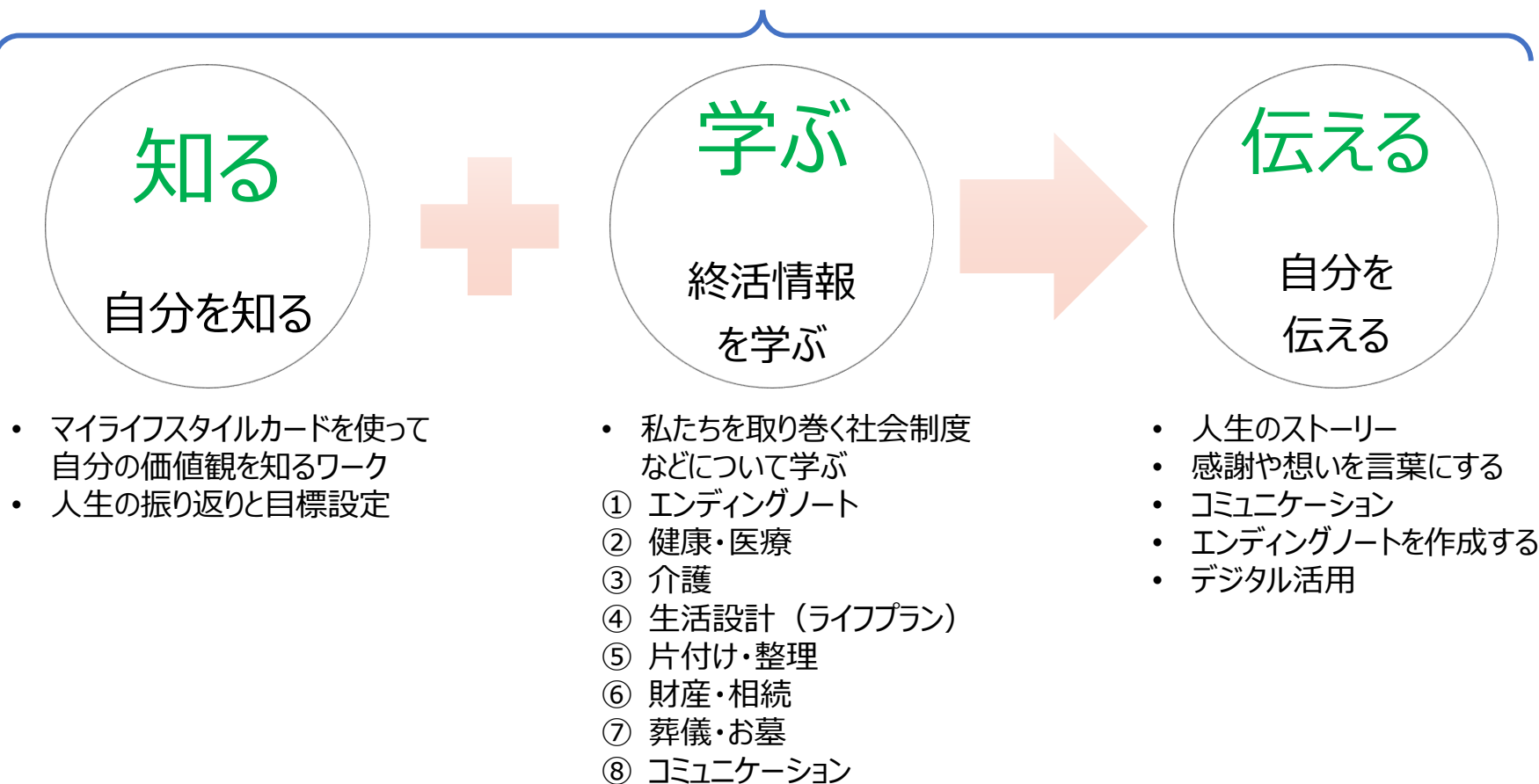
- 内容が多くて挫折してしまう
- 死や最期について考えるのが嫌
- 何を書けばいいかわからない
- 正解を書かなければいけないと思うと書けない
- 相談できる人がいない
- 時間がない
- 今すぐの必要性を感じていない



エンディング・コンシェルジュの役割

個人の抱える潜在ニーズに気づき、
適切な支援が受けられるサポートをします

終活についてのトータルサポート



カリキュラム（全体像）

